

平成 30 年度 国語科

教科	国語	科目	古典B	単位数	3単位	年次	2年次
使用教科書	新 高等学校 古典B (明治書院)						
副教材等	原色シグマ新国語便覧 増補三訂版 (文英堂)、完全傍訳 やさしくくわしい古典文法三訂版 (尚文出版)、シンプルスタイルシリーズ 古文単語301 (尚文出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

古典Bの授業では、今と古典の世界の違いを知り考えること・習得した知識を活用して自力で古典を読み、内容の把握ができるようになることを目指します。そのためには予習や宿題・授業の中で、テキストや辞書を活用しながら自分で考えて取り組むことが必須です。また、各自に応じた疑問の解消・弱点の克服ができるよう積極的に授業に臨むことを求めます。

2 学習の到達目標

- ・古文と漢文に触れ、その時代に生きた人々の考え方や感じ方を学び、現代を生きる自分自身との共通点・相違点を考えることを通して人間や生き方に対する考えを豊かにする。
- ・様々なジャンルの古典を自力で正確に読むことができるようになるために、重要古語・古典文法・古典常識等を身につける。
- ・新出の助動詞・敬語等を理解し、古典の内容を正確に把握し、現代語訳ができるようになる。
- ・日本にも大きな影響を与えた漢文に慣れ、日本語の底流を作る漢文脈や中国思想を知る。
- ・古典の言葉・表現を通して、日本語についての認識を深め、言語感覚を養う。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:読む能力	c:知識・理解
観 点 の 趣 旨	古典に関心を持ち、能動的に学習に取り組むことを通じて、現代に通じる価値を見つけられるよう努めている。また、言語文化に対する理解を深めようとしている。	テキストや辞書を用いて、授業で習得したことを活用しながら自力で現代語訳をすることができている。また知識や現代語訳を踏まえて、内容を正確に理解できている。	古典文法、古典常識、重要古語等を理解している。理解した知識を使って、文脈に即して自身の力で正確な理解につなげられている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の言動の観察 ・授業ノートの点検 ・予習や宿題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の質問への回答内容 ・取り組み (現代語訳、ワークシートなど) の点検 ・定期考査の出来具合 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の質問への回答内容 ・小テストの出来具合 ・定期考査の出来具合

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c		
1学期	説話	『十訓抄』『大江山』 『古今著聞集』『安養の尼の小袖』	○	◎	◎	a: 現代語訳と内容理解を通して、説話の面白さを味わう。 b: 語句と文法の知識を活用して自分で現代語訳を作る。 c: 尊敬の助動詞を習得する。既習の助動詞を再確認し、現代語訳に活かせる。	a: 授業や予習・宿題などの取り組み b: 定期考査、授業中の発言、ノート c: 文法小テスト、助動詞の練習プリント
	故事・逸話	『蒙求』『蛭雪の光』 『列史』『朝三暮四』	◎	○	◎	a: 句法に注意しながら、書き下し文に直し、音読することを通して、漢文のリズム・表現に親しむ。 b: 正確に現代語訳することを通して、内容をとらえる。 c: 故事成語の由来となる話を理解する。	a: 授業や予習・宿題などの取り組み b: 定期考査、授業中の発言、ノート c: 小テスト、句形のプリント
	随筆	『方丈記』『ゆく河の流れ』 『枕草子』『うつきしきもの』	◎	◎	○	a: 中学校で扱った随筆の冒頭部分を思い出しながら、新しい意味合いにも触れ、理解を深める。 b: 文法事項の理解を現代語訳・読みにつなげる。 c: 既習の文法事項を定着させる。	a: 授業や予習・宿題などの取り組み b: 定期考査、授業中の発言、ノート c: 文法小テスト、助動詞の練習プリント
2学期	日記	『更級日記』『門出』	○	◎	◎	a: 日記文学に触れ、能動的に理解しようとする。 b: 敬語を含んだ表現に触れ、現代語の方法をつかむ。 c: 敬語の知識を習得する。	a: 授業や予習・宿題などの取り組み、予習プリント b: 宿題考査、定期考査、授業中の発言、ノート、宿題考査 c: 文法小テスト、助動詞の練習プリント

	歴史物語	『大鏡』『花山天皇の出家』	○	◎	◎	a: 歴史物語に触れ、平安時代の歴史の真実を把握する。 b: 助動詞・重要古語の知識を使いながら、人物関係なども含めて古文を正確に読めるようにする。 c: 敬語の基本を整理し、それを活かして人物関係を正確につかむ。	a: 授業や予習・宿題などの取り組み b: 定期考査、授業中の発言、ノート c: 敬語小テスト、助動詞の練習プリント
	物語	『伊勢物語』『通ひ路の関守』 『源氏物語』『光源氏誕生』	○	◎	◎	a: 名場面でもある重要な場面を味わう意欲を引き出す。 b: 敬語表現を意識して、動作の主語を確定し、正確に読み取れるようにする。 c: 敬語の基本を整理し、人物関係を理解し、場面を把握する。	a: 授業や予習・宿題などの取り組み b: 定期考査、授業中の発言、ノート c: 敬語小テスト、助動詞と敬語の練習プリント
3学期	物語	『源氏物語』『小柴垣のもと』	○	◎	◎	a: 名場面でもある重要な場面を味わう意欲を引き出す。 b: 敬語表現を意識して、動作の主語を確定し、正確に読み取れるようにする。 c: 敬語の知識を応用し、人物関係を理解し、場面を把握する。	a: 授業や予習・宿題などの取り組み b: 定期考査、ノート、宿題考査 c: 助動詞と敬語の小テスト、助動詞と敬語の練習プリント
	史話・史伝	『十八史略』『背水の陣』	◎	○	○	a: 描かれた場面に関心を持つ。 b: 書き下し文にすることを通して内容が読み取れるようにする。 c: 使役形、疑問形を中心に句形を活かし、意味が正確にとれるようにする。「背水の陣」という言葉の基になる話を理解する。	a: 授業や予習・宿題などの取り組み b: 定期考査、授業中の発言、ノート c: 小テスト、句形のプリント

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 読む能力
c: 知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。